

今月のテーマ

薬の投与量

薬の投与量をチェックするのに大切な主な項目

体重・身長・年齢・腎臓の働き・検査値など

小児の場合は、体重に応じて薬の量を調節することが多いため、体重を確認し薬の投与量をチェックします。(年齢からは、標準値での体重を推測します。)

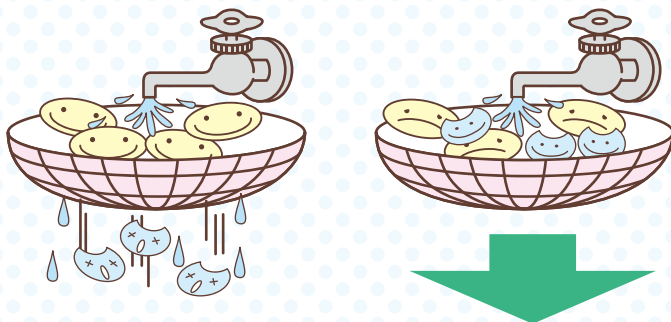
成人の場合は、基本的には決められた量が処方されます。(薬によっては病状に応じて投与量が調節されることもあります。)

しかし、一部の薬では身長と体重から計算して薬の量を定めることがあるため、成人でも身長と体重を確認することがあります。

さらに、多くの薬が「腎臓」を介して体から外に出るため、薬の投与量には、腎臓の働きが影響します。

腎臓の働きを知るためには？

腎臓の働きを細かな網目の「ざる」にたとえています。



腎臓の働き(ろ過能力)

腎臓のなかにある「糸球体」しきゅうたいという組織で血液から「老廃物」をろ過し、尿として体外に排出しています。

腎臓の働きが悪くなると、細かな網の目が詰まります

「老廃物」は体の外に出にくくなり体の中に残りやすくなります

老廃物の一種である「クレアチニン」が体内に残っている量で腎臓の働きを推測します

血清クレアチニンの基準値:(男性)0.6~1.1mg/dl (女性)0.4~0.7mg/dl

筋肉の多い人は「クレアチニン」のつくられる量も多い



大柄な人は数値が高く出やすく、逆に小柄な人は数値が低く出る傾向にあります。

他に腎臓の働きの程度を分かりやすく表現したものに「eGFR」(推算糸球体ろ過量)があります。

- ✿ 腎臓は体のさまざまなメカニズムによって守られているため、腎臓の働きがある程度悪化してからでないとクレアチニンの数値は上昇しませんので、定期的に健診や医師の検査を受けましょう。
- ✿ 生活習慣病(脂質異常症・高血圧・糖尿病・肥満)は、腎臓に悪影響を及ぼしますので注意しましょう。

薬の投与量は、多すぎると副作用のリスクが上がり、少なすぎると期待する効果が出ないかもしれません。決められた投与量、用法(飲み方・使用法)を守って服用することが大切です。

そのため薬局では、必要に応じて、体重・身長・年齢・腎臓の働き・検査値などを確認させていただいております。

医師から指示された場合を除き、自己判断で薬の量を調節しないようにしましょう。



お薬や介護についてわからないことや、気がかりなことがありましたら、お気軽にお尋ねください。

担当 みやこ薬局 紫竹店

***** みやこ薬局 *****

本店・山科店・薬大前店・マツヤスーパー店・北山店・紫竹店
大宮店・みやこケアプランセンター(北山店横)

<http://www.miyako-ph.co.jp>